

梅原末治 ウメハラ 考古學者。明治二十六年八月十二日大阪府南河内郡生乳、昭和五十八年二月十九日歿（八九三—一九六三）。大正二年同志社普通學校卒。在學中歴史地理學會に入り喜田貞吉の知遇を得、ゆき濱田青陵、今西龍、内藤湖南の師事として考古學、史學を學ぶ。十一年朝鮮總督府の古蹟發見調査に参加する。十四年歐米遺蹟、博物館を巡歴して昭和四年歸國。東方文化研究所所員を経て、十四年京都帝國大學教授となり、「支那青銅器時代の研究」と學位を受く。定年退官後大理大學、臺灣大學等と研究、講義。三十八年文化功勞者。

著書に、『佐味田及新山古墳研究』（大正十年十月十五日岩波書店）、『中國青銅器時代考』（胡厚宣譯、中華民國二十五年五月上海・商務印書館「史地叢書」）、『東亞の古代文化』（昭和二十一年六月十日奈良・養徳社）、『朝鮮古代の文化』（昭和二十一年十二月）（東京都・高桐書院）、『朝鮮古代の墓制』（東亞古墓制の研究第一部）（昭和二十二年五月五日産右寶刊行會）、『日本の古墳墓』（昭和二十一年六月十五日奈良・養徳社）等。

